

茨城

CONTENTS

1 協会事業

第33回外国人による日本語スピーチコンテストを開催しました！
令和5年度 国際理解教育講師等派遣事業（ワールドキャラバン）

2-3 GLOBAL VIEW

メディアが伝えた茨城県国際交流協会の取組

4-5 交流の広場

わが町の外国人リーダー
在留外国人を対象としたマイ・タイムライン普及の取組
Young Eyes / Across Cultureここが違っておもしろい！

6 地球だより

見どころ満載のクロアチア ～是非お越しください

卓だより

G7 茨城水戸内務・安全担当大臣会合が開催されました。

7 For You

お知らせ

8 Said & Did

第33回外国人による日本語スピーチコンテストを開催しました！



👑上位入賞者は以下の通りです。👑

賞	受賞者・タイトル
茨城県知事賞 日本語ボランティア賞	ディアナ リズキ オクタリナ（インドネシア出身） 「日本発のヒジャブの文化」
茨城県議会議長賞	サイ ゲイキョウ（中国出身） 「表と裏」
茨城県教育長賞 若人賞	ゲン ゴック トゥアン（ベトナム出身） 「オシシイ国際関係」
ひばり賞	トウ シカン（中国出身） 「私の日本留学生生活ー留学生生活を通して感じたことと考えたことー」

2月17日（土）、ザ・ヒロサワ・シティ会館小ホールにて、第33回外国人による日本語スピーチコンテストを開催しました。昨年に引き続き観覧者を入れての会場開催となり、当日は活気に溢れていました。また、今年度もライブ配信を行いました。

このコンテストは、県内で生活している外国人の皆さんが日頃考えていることや、日本・茨城の印象、母国の話など、県民との相互理解を深めるテーマを日本語で発表し、異文化交流を促進するものです。

11か国36名の方から応募があり、選考の結果、アメリカ、インドネシア、オランダ、中国、バングラデシュ、ベトナム、ミャンマーの7か国、男女15名の方々に発表していただきました。

それぞれ異なる文化的背景を持った出場者が、日本での体験をもとに様々なテーマで話す内容は、どれもなるほどと感ずるところがあり、考えさせられるものが多くありました。一つ一つのスピーチが聴衆の皆様に響くもので、国際理解を深める良い機会となったことと思います。また、民族衣装を着てスピーチをした発表者もいて、華やいだ雰囲気会場をさらに盛り上げてくれました。

今年も、15の協賛企業・団体から素晴らしい賞品を提供いただき、発表者全員に各賞が行きわたりました。

令和5年度 国際理解教育講師等派遣事業（ワールドキャラバン）

ワールドキャラバン
とは

県内の学校や、生涯学習関係機関、並びに国際交流団体等が国際理解の促進を目的とした事業を行う際に、外国人等講師や参加型学習のためのファシリテーターを派遣する制度です。参加者に、外国人と直接対話する機会や、開発教育のワークショップ等を体験する機会を提供することによって、国際理解を深め、国際社会で活躍できる人材の育成を図ることを目的としています。昨年度同様、対面交流と並行してオンライン交流も実施しています。

今年度のワールドキャラバンでは、県内の小・中・高・特別支援学校、生涯学習団体等に、外国人講師等を49団体・66件派遣しました。（実施予定含む）

学校からは、「講師の先生の明るくフレンドリーなお人柄に魅せられて、生徒たちは海外に興味をもち、楽しく学ぶことができた。」「話だけでなく、観光名所の写真、民芸品、貨幣、民族衣装も持参してくださったお陰で、子供たちが実際に手に取ったり試着したりできる体験的な活動となった。」などの感想をいただきました。

また外国人講師の皆様からは、「自分の国や文化を他者に伝える楽しさとその意義を実感した。生徒の皆さんの期待に満ちた眼差しを見ると、自分の国の魅力や独自性を再確認することができた。」「学生たちに母国の文化を紹介できることは、多様性を理解できる効果的な方法だと思った。また異なる視点や文化、国についての知識を深めることはいいことだと実感した。」などの感想をいただきました。

県内における在留外国人数が増加傾向にある今、海外へと目を向けるきっかけとして、当事業をご活用いただければ幸いです。

令和6年度の事業（派遣申請等）については、準備でき次第当協会ホームページに掲載予定です。ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。



GLOBAL VIEW

特集

メディアが伝えた茨城県国際交流協会の取組

茨城県内で暮らす外国人が増え（全国第10位）、日本人と外国人との相互理解や国際交流において県域を対象とする茨城県国際交流協会の果たす役割は大きくなっていると感じます。多文化共生関連のニュースなどメディアが日々様々な情報を発信していますが、今年度メディアが伝えた当協会の事業をご紹介します。今回は地域社会に密着し茨城の情報と魅力を伝える地元紙面からピックアップしました。

※著作権の関係で取材を受けた内容について当協会が写真と文章を作成しました。（記事自体は異なります。）

異業種との連携で
地域活性化に貢献

JA 茨城県中央会と包括連携協定を締結



6月13日（火）付記事

JA 県中央会会長（左）と当協会理事長が協定書を取り交わしました。「地元農業の進展と多文化共生の地域社会づくり」に連携して取組めます。

外国人材 ×
地域活性化 =

新しい茨城

ウクライナからの留学生が県産品を使い 母国料理をPR（世界の料理ミーティング）



6月18日（日）付記事

調理を通してウクライナ人留学生が笑顔になれるひとときの機会を提供し、YouTube による情報発信を行いました。留学生はロシアの軍事侵攻により悲惨な状況にある母国を日本人に忘れないでほしいとの願いを込めました。（JA 茨城県中央会連携事業）

茨城県留学生親善大使 任命式



6月29日（木）付記事

当協会主催、茨城県共催で任命式を開催しました。親善大使は県内の学校や地域交流で講師として母国紹介などを行います。ホームステイや視察研修などの体験もあります。

留学生が知事と面会 （留学生親善大使による知事表敬）



7月15日（土）付記事

茨城県庁で知事を表敬訪問しました。県民との国際交流や相互理解を深める活動に際し、留学生が知事に抱負を語りました。知事からは茨城県への定着に期待が述べられました。

ワールドキャラバン （中学校での異文化理解講師派遣）



9月22日（金）付記事

スリランカ、ベトナム、中国出身の講師が中学校を訪問し、生徒に日本語で母国の習慣や教育制度、挨拶などを紹介し、質疑応答を行いました。

学校の授業や生涯学習に

講師を呼びませんか？

日本から世界にはばたけ 高校生

警察官の皆さん
ありがとう！

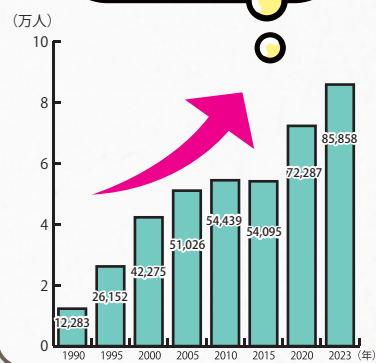
日本発 / 世界発 青年のメッセージ



12月18日（月）付記事

高校生が国際社会への意見発表などを通じて世界で活躍する力を養う目的で開催したイベントのシンポジウムで、中国、韓国、マレーシアの留学生親善大使が高校生に、来日の経緯と高校生が世界に目を向けるメッセージを送りました。

茨城県の在留外国人数
(国統計による)



クエスト茨城留学生研修



11月24日（金）付記事

JA 農産物直売所、茨城県警察・境警察署を視察訪問し、施設職員や警察官から説明などを受けました。こ察官から説明などを受けました。このほか、収穫体験、鑑識体験や剣道体験などを行い、地域社会について理解を深めました。

ワールドキャラバン
(生涯学習の場への国際理解体験講師派遣)



2024年1月23日（火）付記事

市主催市民講座に当協会登録の各国事情紹介講師を派遣し、幅広い世代の参加者が講師の母国の子育て、伝統音楽などについて演奏体験を含めて学習しました。

楽しい交流

国際交流～より文化的で豊かな生活を県民の皆さんの手で～

国際交流は地域生活で必須とは限りませんが、外国出身者との交流や意見交換により、新たな文化や価値観などの気づきを得ることがあります。県民の皆さんが「今まで海外に興味はなかったけれど、なんか面白いかも」、「日本文化や茨城のこんなところが外国人にとって魅力なんだな」という気持ちになれるよう、事業を通して国際交流や異文化理解の楽しさをお伝えできればと思います。

昨今は県内でも外国人コミュニティの方から「母国文化を日本人に伝えたい」というアクションがみられます。面識がないと最初は誰も不安です。お互いに「はじめまして」といえる地域になることを期待しています。その担い手は国籍によらず県民の皆さん一人ひとりです。

わが町の外国人リーダー

マシューさんを紹介いたします



ダフェル マシュー
イギリス出身
県立銚田第一高等学校
教諭

マシューさんは、2018年からALTとして大洗町の小中学校で英語を教えたのち、現在は茨城県立銚田第一高等学校で英語の授業を担当しています。イギリス出身のネイティブスピーカーとして、日本人教員では伝えきれない英語の言語的・文化的魅力を、日々生徒に伝えています。優しくしておおらかな人柄ということもあり、生徒からの人気も抜群です。昨年末には、ザ・ヒロサワシティ会館で行われた「青年のメッセージ」において、留学生シンポジウムの司会を務めました。さまざまなことに挑戦して経験を積み、学んだことを教育現場に還元しようという高い意欲の持ち主です。今後のさらなる活躍を期待します。

マシューさんにお聞きしました

英語科教諭 小林大亮

○これまで活動してきてよかったこと、感じていることなどを教えてください。

2022年に茨城県高等学校教員採用試験に挑戦し、無事合格することができました。現在は茨城県の公務員として、高校で英語を教えています。ALTの時と比べると自分で授業を作ることが出来るので、今まで以上に英語指導にやりがいを感じています。また高校では柔道部の監督もしています。柔道の経験がなかったので初めはとても緊張しましたが、いまではとても楽しく活動しています。茨城に引っ越してきてから友達が沢山出来ました。千波湖や偕楽園にいるとき、本物の茨城を感じます。自分にとって、この気持ちは「ホーム」です。今では他の都道府県から友達が遊びに来たら、茨城の名物や名所を紹介できるぐらい茨城オタクになりました！

○地域で生活している外国人の方々へのメッセージ

茨城県で生活して感じることは、新しい友達ができやすいことだと思います。どこにいてもすぐ親切に話しかけてくれたり仲良くしてくれたりします。日本で生活している外国人の方々には、ぜひ恥ずかしがらないで日本人と対話して欲しいです。失敗する時もありますが、失敗を通して沢山学ぶことができます。日本人の友達、知り合いを作って、ぜひ本物の日本を体験してみてください！



在留外国人を対象とした マイ・タイムライン普及の取組

鬼怒川・小貝川減災対策協議会（事務局：国土交通省関東地方整備局 下館河川事務所 流域治水課）

平成27年9月の関東・東北豪雨で鬼怒川の堤防が決壊した際に4,000人以上が逃げ遅れたことを受け、一人ひとりの防災行動計画「マイ・タイムライン」作成の取組みが進められてきました。一方、在留外国人は近年増加傾向ですが、防災行動については十分に伝わっていないことが課題としてあるため、在留外国人の方々へも「マイ・タイムライン」を普及させていく取組みを始めました。

今年度は外国人の方々へ伝える工夫として日本語ボランティア教室を対象としました。日頃から外国人と支援者の皆様と交流し信頼関係ができている点に着目しました。鬼怒川・小貝川流域から結城市、筑西市、下妻市、八千代町、つくばみらい市の教室関係者にお集まり頂きました。

第1日目に外国人の方へマイ・タイムラインを教える講師を育成するため、教室ごとのグループをつくり支援者の皆様に研修を行いました。第2日目に支援者の皆様が講師となり、各日本語教室に通っている在留外国人の方へ、日本の水害の特徴やハザードマップの見方、防災情報の収集方法などを教えながら、マイ・タイムライン作成の講習会を開催しました。

参加した在留外国人の方全員から、マイ・タイムラインは役に立つと思うなどの感想をいただき、必要性が高いことが確認できました。また、支援者の皆様は日頃から熱心に支援活動をされていて、意見交換会では、外国人の気持ちに寄り添った意見や課題、提案など、更に普及を進めるためのヒントをたくさん頂きました。

今回、無事に開催できたことは、茨城県国際交流協会様にご協力いただき、日本語教室と調整頂いた結果であり、地域住民の安全・安心を守るためには、防災部局と多文化共生部局、地域おこし協力隊など、様々な立場の方々との連携や情報共有が重要であることを再認識しました。

引き続き、在留外国人の皆様によりわかりやすく理解していただくための方法を検討して、日本人も外国人も「逃げ遅れゼロ」を目指して取組んでまいります。





YOUNG EYES

『変化を恐れる私たちへ』に込めた思い

県立土浦第一高等学校 2年
松間 夕華

国際教育弁論大会において『変化を恐れる私たちへ』と題し、「言語の壁を打ち破り、ともに世界と繋がろう」と私は呼びかけました。県知事賞をいただけたことで、私の言葉が誰かの心に響いたのかもしれないと思え、次の挑戦への勇気をもたらすことができました。

私自身この大会に出場するのは二度目で、前回は審査委員の先生に「言葉の中に試行錯誤が見られる。ぜひ、問題について考え続けてほしい。」という言葉いただきました。それから一年、学校や年齢といった垣根を超えて、人と対話することを心掛けました。実際に原稿をかくと決めてからは、人と関わることの意義や必要性、その方法を考え続けました。そんな中でアメリカのメトロポリタン美術館を訪れ、世界の芸術に感銘を受けた経験と、国外の音楽が世界観を広げてくれた経験がリンクし、「芸術を足がかりに世界と繋がれないだろうか」と考えたのです。大変だったのは短い弁論の時間で聞き手にどう伝えるかを考えることでした。そこで、「音楽」なら言葉よりも体感してもらう事ができるのではないかと考え、弁論に歌を取り入れることにしました。緊張もしましたが、自分が楽しめれば必ず相手にも伝わる、歌の持つ力を信じて精一杯歌いました。

将来は伝える仕事がしたい。私にはそんな漠然とした思いしかまだありません。この一瞬一瞬で得たものを誰かに伝えたい。私が伝えた情熱や情報が誰かの背中を押せるかもしれない、誰かを救えるかもしれない。特に、同年代の中高生には国際交流の大切さと楽しさを伝えていきたいです。私ができることを一生懸命に考え、挑戦し続けます。



ACROSS CULTURE ここが違っておもしろい!

在南米県人子弟次世代ビジネスリーダー研修員 榎本・ジャニナ・チエミ



○ブラジルってどんな国?

ブラジルは南アメリカで一番大きな国土を持った、自然がとても美しい国で、カーニバルやサッカーなど、独自の文化やお祭りがあります。人々は情熱的でフレンドリーな性格の人が多いです。

また、ブラジルにはいろいろな国から移住した人がいますが、日本から移住した人もたくさんいて、世界で一番多く日系人が住んでいます。

○日本に来たきっかけは?

私は、茨城県にルーツを持つ日系ブラジル人で、日本には茨城県の在南米県人子弟研修員として来日し、筑波大学で勉強しています。私が日本に来ることを決めたのは、自分のルーツである日本の文化や伝統を理解したり、日本語能力を向上させたりするには、実際に日本へ来て住んでみる必要があると思ったからです。

また、私は現在、日本に住む日系人の子供に関する教育について研究しているので、日本に来て実際の教育現場でどのようなことが行われているか、現状や課題を調査したいと思ったからです。



違いがあります。まず、ブラジルの学校は、授業が午前の部か午後の部に分かれています。生徒はどちらかを選んで学校に行きます。ブラジルの学校には部活動の時間はありません。日本の部活動のような活動をしたい人は、地域のクラブで勉強します。また、ブラジルの学校では国語、算数、理科、社会、外国語の他に、各州の特徴を取り入れた授業や、生徒の生活に関連した授業がおこなわれています。学業だけでなく、体験やスキルの向上も重視されており、授業の時には、生徒が自主的に発言することが多いです。

○私の将来の目標

私の直近の目標は、今回の研修で調査した成果を基に、論文を書くことです。そのため今は、高校やブラジル人学校に行って、色々な調査をしています。また今後は、そのテーマをより発展させるために、帰国後はもう一度日本の大学に留学し、外国にルーツを持つ子供の教育に関する支援方法について、研究したいです。



○ブラジルと日本のここが違っておもしろい!

ブラジルと日本の学校文化には いくつかのおもしろい

地球だより News from the earth



見どころ満載のクロアチア ～是非お越しく下さい

クロアチア政府公認観光ガイド、日本語教師 ミリチッチ・マルコ (MILICIC MARKO)

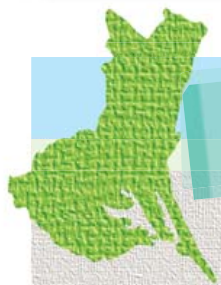
私は元茨城県留学生親善大使で、2018年に筑波大学を卒業した後に、母国のクロアチアに帰国し、日本との架け橋になろうと個人事業を始め、現在はクロアチア人に日本語を教えながら、日本人観光客向けに日本語で観光ガイドをしています。

クロアチアはイタリア東側の海、アドリア海の向こう側にある小さい国で、九州の約1.5倍の面積しかありません。にもかかわらず、日本でも馴染みの日常的に使われるものがたくさん発祥した地であることはご存知でしょうか。例えば、サラリーマンに欠かせないネクタイはその一例です。クロアチア軍は制服として赤いスカーフを首の周りに巻きます。その昔フランス軍の一部として戦ったときに、パリ在住の人たちの中で非常に人気となりました。クロアチア軍の様にスカーフを巻くスタイルを「ラ・クロアテ(クロアチア風)」と呼ぶことになり、最終的にルイ14世も自分のファッションに取り入れたのです。

また、クロアチアはヨーロッパにある国だからこそ、歴史が非常に複雑で、様々な国の支配下にあった国でもあります。クロアチアの内陸部はオーストリア=ハンガリー帝国やオスマン朝(トルコ)の影響、海岸沿いはベネチアなどの影響が色濃く、各地域においては文化や建築、食文化がかなり異なります。旅するといくつかの国を回ってきた印象すら覚えます。

ところで、クロアチアといえば多くの人は恐らくドゥブロブニクを思い浮かべるでしょう。ドゥブロブニクは現在世界遺産の街として登録されていますが、赤い屋根と真っ白な旧市街の家の壁が印象的で、ジブリの「魔女の宅急便」や「紅の豚」にも影響を与えました。最近、日本人観光客の間では、「魔女の宅急便」の主人公キキのコスプレをしてドゥブロブニクを訪れることが人気となりました。

ミリチッチさんのインスタグラム(きれいな風景写真の投稿あり)
<https://www.instagram.com/markocroatiajp/> →



県だより

G7 茨城水戸内務・安全担当大臣会合が開催されました。

茨城県営業戦略部国際観光課 係長 島田 翔貴

昨年12月8日(金)から10日(日)の3日間にわたり、「G7内務・安全担当大臣会合」が水戸市で開催されました。本会合は、2023年G7広島サミットに合わせて日本国内で開催される15の関係閣僚会合の一つで、公共安全を所管するG7各国の閣僚等が、サイバーセキュリティや特殊詐欺など国際的な治安課題について議論しました。

県では、水戸市などと共に官民連携の推進協議会を設立し、万全の態勢で代表団をお迎えできるよう準備を進めてきました。会合期間中は、心のこもったおもてなしを提供するとともに、様々な機会を捉え、茨城・水戸が有する歴史・伝統・文化・食の魅力を発信しました。

12月8日(金)に開催された歓迎レセプションでは、厳選された県産食材を目の前で調理する実演ブースを用意し、できたての料理を提供しました。各国の方々からは、「常陸牛」の炙り寿司やしゃぶしゃぶ、「常陸の輝き」のとんかつ、ヒラメ(常磐もの)の握り寿司などが高い評価を受けました。また、日本酒、ワイン、ビールなど県内地酒の充実したラインナップに驚きの声が寄せられました。

12月9日(土)から10日(日)の2日間は、水戸市民会館内で結城紬の試着体験や水府提灯などの伝統工芸品の展示、県産花きによる装飾などを行い、各国の方々から茨城の魅力を視覚的に楽しんでいただきました。また、コーヒープレイクスペースを設け、県産の菓子類と共に、コーヒーや県内の銘茶(奥久慈茶、水戸茶、さしま茶)をお楽しみいただきました。

県としては、今回の大臣会合を契機に、茨城・水戸の認知度と地域ブランディングの向上に努めるとともに、引き続き県産品の海外展開や誘客促進など、海外との経済交流を推進してまいります。



伝統工芸品展示(結城紬着心地体験)



歓迎レセプション
(ヒラメの握り寿司・魚さばき実演)



コーヒープレイク(県内茶の提供)

for you...

24年度春期世界文化セミナー 参加者を募集しています！

毎回様々な国籍のゲストを講師に迎え、英語で母国を紹介し
ます。意見交換を通して、異文化理解を深めましょう。今期セミ
ナーは、県国際交流員セイフェン・ジャワ(フランス出身)が司会
となり、英語で進行します。23年度秋期セミナーでは「ドイツの
教育制度」、「南アフリカ人のアイデンティティーの多様性」や
「インドネシアにおける中国系人の立場」など多岐に渡るテーマ
と地域が取り上げられました。英会話力を高めたい方、各国の社
会情勢に興味をお持ちの方、下記のQRコードより是非お申し込
みください！

詳細はコチラ↓



バナー広告募集中！

当協会ホームページのトップページにバナー廣
告を掲載することができます。
国際交流や多文化共生等に興味がある方に、あな
たの会社や事業をPRしてみませんか。
なお、バナー広告料収入は、協会の様々な事業に
有意義に使わせていただきます。

詳細はコチラ↓



茨城県留学生親善大使を募集します

国際交流活動に意欲があり、県内の学校などで
母国について紹介できる外国人留学生を「茨城県
留学生親善大使」に任命します。(2024年6月頃に
任命式開催予定)
興味のある方は、ぜひ当協会のホームページを
ご覧ください。

詳しい情報は
コチラ↓



賛助会員を募集しています！

当協会では、茨城県に在住する外国人の皆様が安心して生活
できるよう、多言語による相談事業や情報提供などを実施し、外
国人の皆様にも住みよい地域づくりに努めています。また、より
多くの県民の皆様が外国の方々と交流し相互理解を深める機会
を提供するために、留学生や在住外国人の方々、交流団体の皆様
と連携し、様々な交流事業も展開しています。

皆様からのご支援をもとに、さらに充実した活動を続けて参
りたいと存じますので、賛助会員へご加入いただき、お力添えく
ださい。

会員になると、機関紙「ふれあい茨城」の送付、各種イベント等
情報の提供、協会施設の優先利用、提携旅行社の割引などの特典
があります。

また、賛助会員は、公益法人への寄付として申告により所得税
や法人税の優遇措置の適用を受けることができます。

皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

賛助会費	団体会員	1口 10,000円(1口以上)
	個人会員	1口 3,000円(1口以上)



※賛助会特典、税金の優遇措置の詳細については、当協会HPをご覧ください。

~JICA海外協力隊2024年度春募集のお知らせ~

2024年度JICA海外協力隊
の募集を5月17日(金)~7月11
日(月)の日程で行います。

期間中、6月22日(土)には水
戸駅直結エクセルホールで
JICA海外協力隊のトークイ
ベントを開催します！海外や
国際協力、ボランティア活動
に興味のある方ならどなた
でもご参加いただけます。こ
の機会に是非お越し下さい。

また、JICA茨城デスクでは
個別相談を行っています。
JICA海外協力隊参加経験の
あるスタッフが皆さんの質問
にお答えします。
よろしければ、ぜひご利用下
さい。



問合せ先

JICA茨城デスク(公財)茨城県国際交流協会内
国際協力推進員 新井
電話番号:029-241-1611
Eメール:jicadpd-desk-ibarakiken@jica.go.jp
受付時間:平日9:00~12:00 13:00~17:00

詳細はコチラ↓



各国事情紹介講師募集中！

県内の小・中・高校や生涯学習講座などで、海外の文化等を紹介
する講師を募集しています。外国人の方はもちろん、海外在住
経験のある日本人の方も講師として登録できます。外国の文化、
生活、歴史等の紹介ができる方、民族の踊りや楽器演奏ができる
方、民族衣装や民芸品の実物を持参できる方、外国の料理や遊び
を通して子どもたちとふれあいたい方など、様々な形で外国に
ついて紹介できる方の応募をお待ちしています。募集は随時、詳
細はお問合せください。

●令和5年度 団体賛助会員 (令和6年1月末現在) ※敬称略

- 石岡商工会議所
- 「茨城アジア教育基金」を支える会
- いばらき印刷 株式会社
- 一般社団法人 茨城県医師会
- 公益財団法人 茨城県開発公社
- 茨城県火災共済協同組合
- 茨城県行政書士会
- 一般社団法人 茨城県経営者協会
- 一般財団法人 茨城県建設技術公社
- 茨城県市長会
- 社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
- 茨城県商工会議所連合会
- 茨城県商工会連合会
- 茨城県信用組合
- 茨城県信用保証協会
- 茨城県青年海外協力隊を育てる会
- 茨城県世界少年コミュニケーションクラブ(WYCO)
- 茨城県中小企業団体中央会
- 茨城県町村会
- 茨城県日中友好協会
- 株式会社 茨城ポートオーソリティ
- 株式会社 茨城読売 S
- 鹿嶋国際交流 J Cサークル
- 鹿嶋都市開発 株式会社
- 鹿島埠頭 株式会社
- 鹿島臨海通運株式会社
- 鹿島臨海鉄道株式会社
- 株式会社 光和印刷
- 古河市国際交流協会
- 国際ソロプチミストつくば
- コトブキ印刷 株式会社
- J A 茨城県中央会
- 下館商工会議所
- 株式会社 常陽銀行
- 常陽トータルサービス 株式会社
- 昭和建設 株式会社
- 鈴織工業 株式会社
- 関影商事 株式会社
- 株式会社 高野高速印刷
- 社会福祉法人 達生堂 城西病院
- 筑西市国際友好協会
- 中国武術茨城推進協会
- チョッ サラン
- 株式会社 筑波銀行
- 株式会社 つくば研究支援センター
- 電機連合茨城地方協議会
- 那珂市国際交流協会
- 日本原子力発電 株式会社 東海事業本部 地域共生部
- 日本語学校つくばスマイル
- 日本労働組合総連合会 茨城県連合会
- ヌーベルアーシュ株式会社
- ヌーベルキャリア株式会社
- ヌーベルメディア株式会社
- ハン サラン
- 常陸大宮市国際交流協会
- 日立商工会議所
- 広沢商事 株式会社
- ふじの会
- フレンドリーあんず
- フレンドリージャパンワールド
- 水戸内原国際交流ふれあいの会
- 水戸商工会議所
- メサフレンドシップ
- 株式会社 めぶきリース
- 株式会社 ライフサポート 山野
- 株式会社 ルックアット
- 国際交流おもてなし「確碑の会」
- ワタヒキ印刷 株式会社

他1社 計69団体

皆様のご支援とご協力に
心より感謝申し上げます。



Said and Did



外国人のための一日無料相談会

当協会では、外国人集住地域において、外国人が母国語で専門家に相談できる機会を提供することを目的に、毎年「外国人のための一日無料相談会」を実施しています。

今年度は、例年開催している県南・県西地域のほか鹿行地域を追加し、出張相談会の拡充を行いました。

まず、県南地域在住の外国人を対象に、令和5年9月3日(日)土浦市にて専門家相談会を実施し、弁護士、行政書士、社会保険労務士が、通訳を介して、在留資格、労働問題、年金・保険、税金など26件の相談に対応しました。

続いて県西地域の相談会は、令和5年11月26日(日)筑西市で実施し、在留資格、労働問題、起業、国籍・帰化など19件の相談があり、弁護士と各言語の通訳とで対応しました。

また、鹿行地域の相談会は、弁護士、行政書士、社会保険労務士に加えて医師の先生方にもご協力いただき、令和6年1月28日(日)、神栖市で実施しました。在留資格、労働問題、医療、教育、交通事故など11件の相談があり、それぞれの専門家が通訳を交えて対応しました。



第2回クエスト茨城留学生研修を実施しました

秋のクエスト茨城留学生研修を、11月18日(土)に実施しました。本ツアーは、留学生が茨城県への理解を深め、愛着を持って留学生活を送ることを目的としており、留学生24名が参加しました。

JA茨城県中央会と茨城県警察ご協力のもと牛久市と境町を訪問し、農産物直売所の見学、野菜収穫体験、警察署の見学等を行いました。

直売所では、施設見学と座学にて県内農業の状況について学びました。またネギの収穫体験や、直売所での買い物を楽しみました。警察署では組織・役割の説明、鑑識、剣道、白バイ・パトカー乗車などの体験活動、意見交換会などを行い、留学生にとって貴重な経験になりました。

バスツアーを通して、日常では得ることのできない多くのことを吸収したり、他の学校の留学生と交流したりと、実りある一日を過ごすことができました。



茨城ふるさとファミリー事業

17家庭のホストファミリーにご協力いただき、茨城県留学生親善大使14名、外国語指導助手(ALT)等5名が、1泊2日のホームステイを通じて日本の生活を体験しました。

ホストファミリーからは、「人見知りな激しい子供たちがすぐに懐いて、ゲストと打ち解け合い仲良くなれたことがとても嬉しかったです」、またゲストからは、「とても親切に優しく接してくれて、本当の家族のように仲良く過ごすことができました」との感想をいただきました。なお、当協会ではホストファミリーを通年で募集しています。ご家庭で国際交流をしてみませんか。



詳しい情報は
コチラ↓



「アフガニスタン地震被災者支援のため義援金募集」の結果について

(公財)茨城県国際交流協会は、NGO茨城の会とともに、アフガニスタン地震による被災者に対して援助活動を行う団体等を支援するため義援金を募集したところ、たくさんの義援金をお預かりすることができました。

援助活動を実施している団体等のうち、被災地での活動の有無や活動内容及び今後の資金需要などを調査のうえ検討した結果、下記の団体に寄付させていただきました。

募金にご協力をいただきました多くの県民の皆様方に厚く御礼申し上げます。

- 義援金額 **228,093円**
- 寄付先 (公財)シャンティ国際ボランティア会 **76,031円**
- (特活)ピースウィンズ・ジャパン **76,031円**
- (特活)難民を助ける会 **76,031円**



編集・発行



(公財)茨城県国際交流協会

〒310-0851 茨城県水戸市千波町後川745 ザ・ヒロサワ・シティ会館分館2F
TEL:029-241-1611 FAX:029-241-7611

ホームページ <http://www.ia-ibaraki.or.jp>
メールアドレス iaa@ia-ibaraki.or.jp